

異業種交流プロジェクトセミナー  
 第一部「時代をとらえるベクトル」川島蓉子氏  
 第二部「今どきのデザインビジネスとモノ作り事情」カナヤツム氏

近未来の市場トレンドを分析されている川島蓉子氏と、若きデザイナー集団を率いるカナヤツム氏を迎え、最近の活動を語って頂きながら、両人のモチベーションの源を感じ取って頂くセミナーを企画。学生、企業内デザイナー、フリーランスデザイナーから教育者まで多くの方の参加を頂き、デザイン界の現状や仕事のこだわり方など、両人の話を通して様々な問題を共有できたセミナーとなりました。

■日時:2006年7月15日(土)13:30~16:50  
 ■場所:宝塚造形芸術大学 大学院 梅田サテライト 5F  
 ■セミナーゲスト 第一部/川島蓉子氏(伊藤忠ファッションシステム株式会社)  
 第二部/カナヤツム氏(CEMENT PRODUCE DESIGN.LTD)

■第一部 基調講演「時代をとらえるベクトル」/川島蓉子氏 コーディネーター:矢澤寿々子氏  
 川島氏が妻、母、キャリアウーマンとして一人三役をこなす一日の時間配分とモード切替の話に始まり、会社勤め21年の中のモチベーション維持の話。そして、仕事における様々な人との関わりや、川島氏のフィルターを通して観た現代デザインの話など、事例を挙げながら話されました。その中で、現代の消費行動が二極化しており、一方の極では「上質というベクトル」に基づいたデザイン提案が必要になってくることを話され、具体例として、大量生産ではないセミオーダー販売をする薄本コレクションの話。ハッピーミステイクや職人技を取入れたプロダクトとしての服作りを目指すデザイナーズ集団ミントデザインの話。銀座松屋の「リタ」や伊勢丹の「リストアイル」など百貨店が取組む自主編集売場の話などをされました。また、男性と女性ではデザインに対する考え方の違いがあり、モノの外観を重視する男性に対し、モノを使っている自分はどう見られているかを重視する女性の話など、多岐にわたる話の中から、「上質」というベクトルを切り口に、時代が望むモノ作りのあり方を考えるきっかけとなった講演となりました。

■第一部 質疑応答「女性と仕事と時間」/川島蓉子氏  
 会場の女性から、ビジネスにおける女性ならではの質問があり、ビジネスの第一線で活躍されている川島氏自身のモチベーションの持ち方や、仕事に対するモットーの話聞き、会場の多くの女性からは共感の拍手が沸きあがり、第一部の終了となりました。



川島蓉子氏

■第二部 基調講演「今どきのデザインビジネスとモノ作り事情」  
 /カナヤツム氏 コーディネーター:矢澤寿々子氏  
 若くしてデザイナー集団を率い、CI(コーポレート アイデンティティ)デザインの世界で活躍されているカナヤ氏の日頃の活動内容を、ビジュアル映像を通して紹介して頂きました。ユニクロにおいて上場企業のCIをTシャツにプリントしたコラボTシャツ企画の話に始まり、各企業へのデザインアプローチはCIにとどまらず、VI(ビジュアル アイデンティティ)デザイン、WEBデザイン、ノベルティグッズデザイン、プロモーション企画の話などデザインディレクションの実例を企業名やショップ名を挙げながら紹介して頂き、生活者に訴求するデザイン界の幅広い活動をビジュアル体感させて頂きました。

異業種交流プロジェクトセミナー  
 パネルディスカッション「日本における、デザインビジネスの行方」



カナヤツム氏



パネラー  
手前から尾原氏、カナヤ氏、大高氏、矢澤氏、岡本氏



会場風景

■第二部 パネルディスカッション「日本における、デザインビジネスの行方」  
 パネラー:カナヤツム氏(CEMENT PRODUCE DESIGN)  
 大高 亨氏(京都造形芸術大学)  
 尾原久永氏(大阪繊維リソースセンター)  
 コーディネーター:矢澤寿々子氏(ココプランニング)

- ・ ビジネスの現場ではプレゼンテーション(デザインをディレクション、プロデュース)能力が足りないのではないかと。—カナヤ
- ・ 教育者にデザインプロデューサー、ディレクター経験者が少なく、ビジネス教育が難しいのが現実である。—大高
- ・ 海外での日本の技術評価は高いが、コスト面での対応が不可能な現状では、売り方を変える必要があるのではないかと。—カナヤ
- ・ 地場産業の現場ではモノを作ってもプレゼンテーションが出来ない為、支援活動中である。また、産地のモチベーションを上げるキッカケを作り、次世代に引継ぐ努力をしているところである。—尾原
- ・ デザインとは経営資源であり、CIの活用が必要である。—カナヤ
- ・ 経営者は過去のセオリーを変えたがらず変化することに躊躇するが、大胆に変化する必要があるのでは。—尾原

パネルディスカッションの締めとしてTDA理事の岡本氏から「モノ、金に加えてデザインは重要な経営資源であり、その為のシステム作りやプレゼンテーション能力の向上が益々必要であり、今回のような機会を活用して我々自身が勉強していくことが大事である。」との言葉を頂き、終了しました。

■交流パーティー  
 講演会場近くのレストラン&バーに会場を移し、ゲストのカナヤ氏を囲みながら、活気ある話に時間を忘れる程、盛り上がったパーティーとなりました。  
 (木谷 雄二郎)

